

平成 29 年度 第 2 回仙台市泉区区民協働まちづくり事業評価委員会 概要
(平成 29 年度 泉 6 大学まちづくりフェスティバル 意見交換会)

日 時	平成 30 年 2 月 12 日 (月・休日) 13:15～14:00
場 所	泉区中央市民センター研修室
出席者	○評価委員 岩動志乃夫 委員長、佐藤重子 副委員長、中井裕子 委員、佐瀬充洋 委員 ○絆プロジェクト助成団体 (8 団体出席、2 団体欠席) 聖和学園短期大学 スポーツクラブ BOA SORTE、聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL、聖和学園短期大学 地域サポーターズ聖笑、仙台白百合女子大学 志水ゼミ、東北学院大学 菅原真枝ゼミ、東北生活文化大学 版画研究室、宮城大学 マイチゼミ、宮城学院女子大学 正木ゼミ ○まちづくり活動助成事業団体
事務局	泉区まちづくり推進課
内 容	平成 29 年度企画事業事後評価 (大学連携地域づくり事業のいずみ絆プロジェクト支援事業に該当する 10 団体) に向けた意見交換会を円座で行う。 参考：泉 6 大学まちづくりフェスティバル 次第 1. 開会 (ホール) 2. Izumi Community Project、絆プロジェクト助成団体、まちづくり活動助成事業団体の発表と質疑応答 (ホール) 3. カフェ、ワークショップコーナー (ホール) 4. 意見交換会 (研修室)

【各団体との意見交換】

宮城大

- ・地域団体のイベントのポスター制作を行ってきた。座学と違い直接声が聞けたりしてとても有意義だった。

宮城大 (大学祭実行委員会)

- ・区民まつりやベガルタ仙台ホームタウンフェスタなどで大学祭の P R の機会をいただき、大学祭にも沢山の方に来場いただいた。

聖和短大 (ダンス)

- ・子どもたちへのダンス教室を実施している。動画を作成し教える際に使用したところとても有効だった。

子育て支援アシスト・エフワン

- ・地域住民が参加できる行事を年間を通して開催している。新しい住民の方と昔からの住民の方とのつながりを作るのに苦労している。今年度、助成金をいただいたことにより、団体の認知度が上がり活動がスムーズに行えた。更なるつながりが持てる活動を行なうことで、地域の課題解決に結びつくのではないかと考えている。

白百合大

- ・今までの活動を継続していきたいと思っているが、後輩がなかなか育たない。地域に出かけても声のかけ方がわからない学生も多い。事業をつなげていくことが課題。

評価委員

- ・活動の継続や声掛けなどもきっかけ作りが大切だと思います。

聖和短大（聖笑）

- ・茶話会を開催する時間を取りづらい中、地域の方を短大に招いて茶話会を開催したこともあった。学生期間が2年と短いことと人数の少なさが課題となっている。先ほども出ていたが、後輩に活動の魅力を伝えて活動を継続することが課題と考えている。

評価委員

- ・活動を維持、継続することが重要になっていくと思います。そこを考えながら企画、実施していくことも大事です。

学院大

- ・介護実習の中で月1回の活動ができていない。日程の確保が問題。介護予防の体操をやっていて、一定の評価はいただいているが、同じことの繰り返しとなっているので疑問に思うところがある。

宮城学院

- ・ラジオ放送を行っている。内容は自分たちで調べ放送しているが、学業との兼ね合いで時間の制約が出てしまう。今回、同じような仲間でもこんなにもイベントが開催されていることが知れて、とてもよかった。ぜひ、私たちの番組をPRの場として使ってほしい。

生文大

- ・活動の継続のため、後輩たちに伝えていくことが大切と考える。学校の人たちに声掛けをしているが難しい。メンバーを増やしていくことが課題。活動の中で美術の楽しさを伝えていきたい。ワークショップなどでアンケートを実施しているので、結果を活動に活かしていきたい。

評価委員

- ・皆さんが抱える課題として後輩に伝える、後輩を育てる、メンバーを増やすことは難しいと挙がっている。では、皆さんはなぜこの活動に入ったのかを考えてみてはいかがでしょう。

生文大

- ・版画は入り口も狭く、忙しく、敬遠される。また、版画は汚れるので、イベントのワークショップでも難しいところがあり、いろいろな手法をとりながらワークショップを行っている。

宮城学院

- ・学生に活動のメリットを伝えることが大切ではないか。地域の人にどれだけ喜んでもらっているか。しかし、それだけではなく、自分に返ってくるものを伝えることが重要ではないか。

評価委員

- ・自分にプラスになることを伝えることは重要です。

聖和短大（聖笑）

- ・サロン活動（茶話会）は小さい単位での開催になるので運営は大変になる。同じような活動をしている団体があるのであれば、他の団体がどのように開催しているのかなど、見学することもよいのではないか。学生ならではの強みであるSNSを使っての発信も利用すればよい。

評価委員

- ・横のつながりや他を見ることはとても良いことで、新たな発見にもつながる。
- ・どの団体もとても良い活動をしているのに人集めで苦労している。メリットを伝えることはとても重要である。また、学内に発信することも大切。すべての地域を対象にするだけではなく、小さな単位も大切にしながら活動してもらいたい。

白百合大

- ・地域の会議に呼ばれて出席することもあるが、そこで、こんなことを手伝ってほしいなど自分の学んでいること以外のことを聞かれると、どこの大学でやっているかなどはとても答えられない。せいぜい先生に話をして学内で探すが見つからない。大学を超えたネットワークがなく、連携があるといいと思う。

評価委員

- ・メリットを見せないと会員は増えないと思う。自分の成長を感じられるものがないといけない。身近なところにメリットはあるので、発見していくことが大切。
- ・自分のこれからのメリットを把握して活動し、それを伝えること。泉には6大学があるメリットを生かして活動する。

聖和短大（聖笑）

- ・連携には窓口が必要になる。活動のキーとなる人を作り、ネットワークを作ることがこれからの課題。

宮城学院

- ・PRを大切に。ラジオも活用できますので、ぜひ利用してください。

評価委員

- ・これからも活躍していただくことを期待しています。
- ・本日はありがとうございました。